



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月6日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ

コード番号 2613 URL <http://www.j-oil.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 榎田 純和

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 立見 健一

四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日

TEL 03-5148-7100

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	44,096	△5.3	1,155	△35.8	1,267	△33.3	772	△27.7
24年3月期第1四半期	46,566	8.7	1,800	60.4	1,900	59.2	1,068	121.3

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 519百万円 (△50.1%) 24年3月期第1四半期 1,040百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	4.62	—
24年3月期第1四半期	6.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	144,907	67,933	46.9
24年3月期	142,436	68,104	47.8

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 67,933百万円 24年3月期 68,104百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	4.00	—	4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	92,000	0.4	2,700	5.6	2,700	6.0	1,500	16.4	8.98
通期	191,000	5.5	6,000	27.7	6,000	28.4	3,300	25.5	19.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	167,542,239 株	24年3月期	167,542,239 株
25年3月期1Q	715,686 株	24年3月期	618,842 株
25年3月期1Q	166,851,329 株	24年3月期1Q	166,925,305 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

平成25年3月期第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年6月30日）に係る経営成績は、次のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、震災からの復興需要等を背景に緩やかに回復傾向にはあるものの、欧州債務危機の影響や電力供給の制約、デフレの影響等により、依然として厳しい状況にありました。

製油産業におきましては、主原料である大豆及び菜種の相場は、乱高下しながらも高値で推移する展開となりました。

大豆のシカゴ相場は、4月中旬には南米産地での干ばつによる大豆減産への懸念等が影響して1ブッシェル当たり15米ドル超まで上昇した後、5月には米国大豆の作付けが順調に進捗したことにより1ブッシェル当たり13米ドル付近まで下落、6月下旬にかけては米国産地での天候不順による大豆減産への懸念等が影響して1ブッシェル当たり15米ドル超まで再び上昇しました。

菜種のウィニペグ相場も、大豆相場と同様の動きを見せ、1トン当たり650加ドル超まで上昇した後、1トン当たり600加ドル割れまで下落、6月下旬にかけて1トン当たり650加ドルまで再び上昇しました。

以上のように原料相場が高値で推移する中、当社は、安定した原料調達を可能とし供給責任を果たすためにも、コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格を実現すべく、得意先に対し粘り強く理解を求めてまいりました。期初の4月1日より、家庭用油脂1kg当たり20円、業務用油脂1缶（16.5kg）当たり300円の価格改訂を打ち出し、得意先の理解を得ながら一定の成果をあげることができました。しかしながら、その間にも原料価格の更なる上昇に見舞われたため、6月には、家庭用油脂1kg当たり12円、業務用油脂1缶当たり200円の更なる価格改訂（7月10日より実施）を発表いたしました。他方、徹底したコスト削減を図るべく、経費予算のゼロベースでの組み直しや生産の効率化等に取り組みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高440億96百万円（前年同期比5.3%減）、営業利益11億55百万円（前年同期比35.8%減）、経常利益12億67百万円（前年同期比33.3%減）、四半期純利益7億72百万円（前年同期比27.7%減）となりました。

当第1四半期におけるセグメントの営業概況は、次のとおりであります。

（製油事業）

油脂部門においては、原料コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格の実現に取り組みました。

家庭用油脂は、“ちょっとdeちょうどいい！”をキャッチコピーとした小容量サイズの新製品を積極的に展開するとともに、製品の特長を生かしたメニュー提案等の積極的な販売活動の下、販売数量は堅調に推移しました。

業務用油脂は、製品価値に見合った販売価格の実現への積極的な取り組みとともに、“長く使える”をコンセプトとした「長調得徳®」シリーズの拡販を行い、販売数量は堅調に推移しました。

マーガリン部門においては、家庭用マーガリンは、昨年発売した「ラーマ®バター好きのためのマーガリン」のキャンペーンを実施する等の拡販に努め、売上高は堅調に推移しました。業務用マーガリンは、“自然な乳の風味”が特長の新製品「マイスター®デリシア」等を6月に発売しましたが、被災地向け需要の減少もあり、販売数量は前年同期を下回りました。

油糧部門においては、菜種ミールは、大豆ミールと比較して相対的に安価となったことで需要が喚起され、堅調な販売数量で推移したものの、大豆ミールの販売数量は低調に推移しました。震災・原発事故の影響が未だ残る飼料需要は低迷を続けており、油糧部門全体では販売数量・売上高ともに前年同期を下回りました。

以上の結果、当事業の売上高は403億68百万円（前年同期比5.9%減）、営業利益は18億23百万円（前年同期比23.3%減）となりました。

(その他)

飼料部門においては、酪農家戸数や乳牛飼養頭数が減少する依然として厳しい販売環境の中、被災地域からの需要に加え乳牛用配合飼料を中心に広域での拡販に努めましたが、販売数量・売上高ともに前年同期をわずかに下回りました。

スターチ部門においては、食品用タピオカ澱粉の販売が振るわなかったものの、粒状澱粉「ネオトラスト®」を新たに発売したことに加え、食品用レギュラスターチの販売数量が前年同期を大幅に上回り、販売数量・売上高ともに堅調に推移しました。

健康食品部門においては、「豊年®大豆レシチン(顆粒)」が昨年テレビで紹介されて以降、大幅に売上を伸ばしているものの、サプリメント全体としては他社品との競合激化等により、売上高は前年同期を大きく下回りました。ビタミンK2 (MK-7) は、欧州競合メーカーの安値攻勢等が影響し、売上高は前年同期を大きく下回りました。大豆蛋白を原料とするシート食品「まめのりさん®」は、世界景気低迷等の影響もあり米国・欧州・中東向けに苦戦し、売上高は前年同期を下回りました。

化成品部門においては、主たる需要家である建材業界では、住宅購入優遇制度等の政策により新設住宅着工戸数が堅調に推移したものの、石油化学系原料の価格は高止まりする厳しい環境となりました。このような状況の下、新たな需要家を開拓する等の拡販に努め、売上高は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、その他の売上高は37億27百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は1億29百万円（前年同期比42.7%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は、前期末と比べ24億71百万円増加し、1,449億7百万円となりました。主な増加は、たな卸資産（合計）が46億83百万円であります。主な減少は、受取手形及び売掛金が4億21百万円、繰延税金資産（流動）が3億42百万円、有形固定資産が9億59百万円、投資その他の資産（合計）が3億68百万円であります。

負債は、前期末と比べ26億42百万円増加し、769億74百万円となりました。主な増加は、支払手形及び買掛金が12億84百万円、社債が120億円であります。主な減少は、借入金合計が66億34百万円、未払法人税等が14億85百万円、未払消費税等が7億41百万円、流動負債その他が11億89百万円であります。

純資産は、前期末と比べ1億71百万円減少し、679億33百万円となり、自己資本比率は46.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

製油産業におきましては、原料相場は史上例を見ない程の高値圏で推移し、特に大豆相場は一時1ブッシェル当たり17米ドルを突破して史上最高値を更新する等、高騰を続けております。このような中、当社は、油脂製品及びミール製品の付加価値化や、生産の効率化等によるコスト削減を推進するとともに、4月及び7月に実施した価格改訂の完遂に向け、粘り強く得意先に対し理解を求めてまいります。

以上により、当期の業績予想につきましては、前回発表（平成24年5月10日）から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ32百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31 日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 6 月30 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,955	5,705
受取手形及び売掛金	37,263	36,842
商品及び製品	12,737	14,623
原材料及び貯蔵品	16,190	18,988
繰延税金資産	1,387	1,044
その他	2,098	2,160
貸倒引当金	△12	△9
流動資産合計	75,620	79,354
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,103	13,145
機械装置及び運搬具（純額）	18,089	19,881
土地	19,746	19,746
建設仮勘定	4,138	400
その他（純額）	1,323	1,267
有形固定資産合計	55,401	54,441
無形固定資産	524	522
投資その他の資産		
投資有価証券	9,889	9,584
長期貸付金	325	302
その他	812	773
貸倒引当金	△137	△137
投資その他の資産合計	10,890	10,521
固定資産合計	66,815	65,485
繰延資産	—	67
資産合計	142,436	144,907

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31 日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 6 月30 日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,227	17,512
短期借入金	16,890	11,580
1年内返済予定の長期借入金	7,649	7,647
未払法人税等	1,615	129
未払消費税等	763	22
賞与引当金	754	380
役員賞与引当金	37	8
その他	12,585	11,396
流動負債合計	56,523	48,677
固定負債		
社債	5,000	17,000
長期借入金	2,916	1,593
繰延税金負債	3,052	2,933
退職給付引当金	3,000	3,004
役員退職慰労引当金	297	263
環境対策引当金	206	206
長期預り敷金保証金	2,175	2,180
その他	1,159	1,114
固定負債合計	17,808	28,297
負債合計	74,332	76,974
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	24,662	24,767
自己株式	△210	△233
株主資本合計	66,085	66,167
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,022	1,808
繰延ヘッジ損益	42	△16
為替換算調整勘定	△45	△25
その他の包括利益累計額合計	2,018	1,766
純資産合計	68,104	67,933
負債純資産合計	142,436	144,907

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	46,566	44,096
売上原価	38,821	37,151
売上総利益	7,744	6,944
販売費及び一般管理費	5,944	5,788
営業利益	1,800	1,155
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	144	135
持分法による投資利益	28	23
雑収入	26	29
営業外収益合計	200	189
営業外費用		
支払利息	82	61
雑支出	18	15
営業外費用合計	101	77
経常利益	1,900	1,267
特別利益		
固定資産売却益	0	0
関係会社清算益	—	10
特別利益合計	0	10
特別損失		
固定資産除却損	28	27
減損損失	35	0
投資有価証券売却損	0	—
会員権評価損	1	—
リース解約損	3	1
特別損失合計	69	30
税金等調整前四半期純利益	1,831	1,248
法人税、住民税及び事業税	355	100
法人税等調整額	406	375
法人税等合計	762	475
少数株主損益調整前四半期純利益	1,068	772
少数株主利益	—	—
四半期純利益	1,068	772

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,068	772
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	63	△214
繰延ヘッジ損益	△96	△58
持分法適用会社に対する持分相当額	4	20
その他の包括利益合計	△27	△252
四半期包括利益	1,040	519
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,040	519
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	42,882	3,683	46,566	—	46,566
セグメント間の内部売上高 又は振替高	84	10	95	(95)	—
計	42,967	3,693	46,661	(95)	46,566
セグメント利益	2,377	226	2,603	(803)	1,800

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△803百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△803百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	40,368	3,727	44,096	—	44,096
セグメント間の内部売上高 又は振替高	62	10	73	(73)	—
計	40,431	3,738	44,169	(73)	44,096
セグメント利益	1,823	129	1,952	(797)	1,155

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△797百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△797百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。